

南郷っ子

学校だより No.17 平成28年3月10日(木)発行

校訓 「カいっばい」 教育信条 「愛と汗」

学校教育目標 「かしこさ、やさしさ、たくましさの調和のとれた人間性豊かな南郷っ子の育成」

卒業式シリーズ②

卒業式前日のお葬式

明日はみんなの晴れの卒業式です。晴れの卒業式を前にこんな話を書くのはどうかと思いましたが、私の『心の響き』※1も今回が最後ということで、私の心の中にある卒業式を書かせていただきたいと思えます。

私の中学校3年生のときの担任の先生は、1学期半ばまでは1年生のときからずっと担任を受け持っていたいただいた理科の先生でした。(私の出身中学校はとても小規模で、全校生徒60人、私の学年も1クラスだけで、人数も23人しかいませんでした。)その先生が、家の都合で退職なされてしまい、1学期半ばから講師というかたちで私の中学校に来られた、大学を卒業したばかりの若い男の先生にかわりました。

その先生が来られて、まず私たちに呼びかけたのは、「毎日日記を書こう。」いわゆる生活ノートでした。私は、1冊のノートをもらった初日から柄にもなく毎日卒業するまできちんと書きました。最初の日には生意気なことにその先生と前の担任の先生とを比較して、批判めいたことを書いたのを覚えています。

それからの日々は、担任の先生ととてもうまが合い、本当によく遊びました。年齢も近いということもあって、一緒に山の中を走り回ったり、田んぼの中でプロレスをやったりと、本当に楽しい毎日でした。理科の授業もとても工夫してくれて、みんな楽しく、まじめに授業に参加できるような雰囲気自然とつくり出されました。受験のときもたくさんのアドバイスをいただいて、無事第1希望に合格できました。

そして、卒業式3日前のことです。

昨日まで一緒に卒業式の練習をし、「初めての卒業式だから緊張するな。でも、きっと泣くと思うよ。」などと話していた担任の先生が、「突然亡くなった。」という連絡を受けました。

死因はトラクターのローターに巻き込まれて即死ということでした。先生の家は農家で帰宅してから実家の畑仕事の手伝いをしているの事故だったということです。

卒業式の前日はお葬式でした。クラス全員でバスに乗ってお葬式に行きました。先生は棺の中に入れていました。しかし、その棺の窓から先生の顔を見ることはできませんでした。先生の亡きがらは、トラクターのローターによって滅茶苦茶にされていて、顔も手も足もなかったそうです。

泣きました。

次の日は卒業式でした。とてもつらい卒業式でした。呼名をしてくださるはずだった先生の代わりに教頭先生が名前を呼んでくださいました。

私の卒業式は、思い出を振り返ることもなく、明日に希望を抱くこともなく、ただ、先生と過ごした日々を思い出し、「なんで死んだんだ。」「なんで卒業式にいないんだ。」と、ずっと心の中で叫び続けた卒業式でした。卒業式の日々の日記は涙でつぶられました。

泣きました。

本当につらい卒業式でした。

3年後、私は大学を受験しました。3校ほど受験した中で合格したのは、先生が卒業された大学でした。

私は教員になろうと思って2年生のときに教職課程を受講するようになりました。

しかし、とても大変だったので途中で投げ出してしまい、そのまま卒業の時期を迎えることになりました。ところが、私はたったひとつの必修教科を落としてしまい、留年することになってしまいました。とてもつらかったけれど、そのとき、きっとこれは先生が、「いい加減なことやってないで、ちゃんと教員になれよ。」と言っているんだなと思いました。

大学は5年目で卒業、その後1年間かけて教職の課程を修了し、教員採用試験にも、大学の教授には「まず無理だね。」と言われたのにもかかわらず合格しました。

皆さんは信じられないかもしれませんが、私は中学校のときの担任の先生が教員にしてくれたと思っています。

若くて逝ってしまった先生

とても優しく、笑うと目がなくなる先生

いじめが大嫌いだった先生

虫が好きだった先生

卒業式を迎えるたびにこの先生を思い出して、つらくなってしまいます。亡くなってから9年間、命日には毎年花を持って手を合わせ、報告に行っていたのも教員になってからは行っていません。

「先生、私は元気で生徒と頑張っています。安心してください。」

「先生、私も3度目の卒業生を送りますよ。先生の言えなかった呼名も3度目です。しっかりやりますから聞いていてください。」

この話は、私（教頭）が初任の頃、とてもお世話になった先生が書きました。不思議なことに、毎年、卒業式の時期になるとこの話を思い出してしまいます。

だからというわけではありませんが、私の担当する生徒達（中学生）が卒業するときは、「みんながステージに立った姿を心に刻みながら呼名します。」と、前日の学年集会で話してきました。

さて、本校の6学年担当職員は、この2年間、強い願いと深い愛情をもって6年生46人の指導にあたりました。卒業式当日は、いろいろな思いを胸に呼名するはずです。

卒業式まであと9日。

私達は6年生児童に対し、身近にいる一人の大人として最後まで良い存在でありたいと思います。

※1 文中の『心の響き』とは、「学年だより」の題名です。この学年だよりは、生徒達が入学した日から卒業する日まで毎日発行され、3年間で724号になりました。

お手紙や感想、ありがとうございました！

『卒業式シリーズ①』を発行したあと、お手紙や感想をいただきました。一方的な思いの発信にとどまらなかったことが、とてもうれしいです。『卒業式シリーズ』を書いてよかったです。

お手紙はすぐに拝見しました。胸が熱くなりました。貴重なお話、本当にありがとうございました。お手紙と『卒業式シリーズ』は、私の宝物にさせていただきます。